

総合研究大学院大学海外学生派遣事業 実績報告書
大家岳（先導科学研究科・生命共生体進化学専攻）

○基本事項

派遣先国名	オーストリア・ドイツ
派遣先研究機関（オーストリア）	ウィーン大学
	International Institute for Applied Systems Analysis (IIASA)
派遣先研究機関（ドイツ）	マックスプランク進化生物学研究所
滞在期間（オーストリア）	1 週間
滞在期間（ドイツ）	1 週間

○派遣先研究機関について

ウィーン大学はドイツ語圏最古の大学で、ウィーン市街の中心部に位置する。自分が訪れた数学科の建物はメインキャンパスから少し離れた場所にあった。

International Institute for Applied Systems Analysis (IIASA) はウィーン近郊にある国際研究機関で、主に政策提言を目的にした研究を行う。なんと宮殿が研究オフィスになっている。

マックスプランク進化生物学研究所はドイツ北部の Plön（リューベックとキールの間にある小さな町で、ハンブルクから電車で 1 時間弱）に位置している。実証と理論双方の研究室がある。



図 1 ウィーン大学数学科（左）と IIASA（右）

○派遣前の準備

自分の今回の海外派遣における主な目的は、自分のこれまでの研究内容をプレゼンし、フィードバックをもらうことだった。これまでの研究の中で自分の研究分野におけるアクティブな研究室は目星が付いていたため、それらの研究室のPIに連絡を取り、訪問の許可をいただいた。

採択時には複数の研究機関の訪問順番が完全には定まっていなかったため、予定が確定した時点で航空機のチケットや移動時のホテルを予約したのだが、採択前の価格よりも少し高くなってしまった。当然のことながら、これらの予約はできる限り早めに行うことをお勧めする。また、ヨーロッパの習慣として勤め人であっても夏休みが長く、研究機関の人間も容赦なくバカンス休暇を取得し音信不通に陥るため、メールのやり取りなどには気をつけた方が良い。ドイツとオーストリアへの短期滞在はビザが不要である。

○海外派遣中の研究

それぞれの研究滞在中における滞在期間は1週間ずつだった。滞在期間のどこかで自分の研究内容のプレゼンを行い、その他の時間は現地のPIや研究者とディスカッションを行うか、自分の仕事をしていた。似たような研究分野の研究室とはいえ、当然様々な問題意識やアプローチがあり、ディスカッションはとても刺激的だった。PIらには多忙な中少なくとも時間を割いてディスカッションして頂けて、有意義なアドバイスも多く貰うことができた。また、現地の研究機関のサマープログラムなどの情報も入手でき、これからのキャリアについても考えを深めることができた。

○研究以外の活動

現地の研究者はみなフレンドリーで、ご飯を一緒にする機会が多かった。やはり研究の話には（図や数式を見るだけでだいたい内容がわかるため）なんとかついていけても、砕けた口調で様々な話題について話す場面では英語力の不足を感じた。

土日にはウィーンやハンブルクなど研究機関の近くの都市で観光した。



図2 ウィーン自然史博物館（左）、ハンブルク港のリックマー・リックマーズ号（右）

○費用について

表2におおまかな経費の内訳を示した。自分の場合はオーストリアとドイツの2カ国を訪問したため、航空機のチケット代がかなりの割合を占めている。マックスプランク進化生物学研究所ではゲストハウス代を負担して頂けたため、少し余裕が出た。

表2 経費内訳

航空機チケット代	約 29 万円
研究機関宿泊施設利用費	約 1 万円
民間宿泊施設利用費	約 8 万円
航空機以外の移動経費	約 1 万円
合計	約 39 万円

○派遣先でのコミュニケーション

研究機関内では当然英語で過ごすことになるが、ドイツとオーストリアはどちらもドイツ語が公用語であり、日常生活ではドイツ語が話せた方が便利だろう。

○派遣先で困ったこと

ドイツではレストランでクレジットカードが使えないことが多いため、現金は多めに持って行った方が良い。自分の場合はマックスプランク研究所のゲストハウス代が無料にならなければ、おそらく現金が切れて困っただろう。